

目と耳でしっかりと感じ取って

二ヶ月ぶりに生徒の皆さんと教室での対面を果たした担任たちは、再会を喜びと同時に、さらに気合いを入れたようです。中日（「ちゅうにち」ではないよ。「なかび」と読むよ。）の昨日、私のもとに何枚かの学級通信が届きました。

皆さんにとっては、配られるのが普通である通信かもしれませんが、私は職員に「学級通信にそんなに力を入れなくてもよい」と言っています。

今世間で話題になっている一つに「働き方改革」があります。担任は通信を出さなければならぬこととはないですし、それに力を入れすぎるために、勤務以外の時間や家族をおろそかにしてはいけなと思うからです。

しかし、北中の職員は皆さんのすてきな姿を目の当たりにすると、すぐにパソコンに向かいます。写真やイラストを積極的に取り入れて、生徒が笑顔で読んでくれることを期待して工夫します。できあがると、内容は適切か、わかりにくい表現がないか、などを確かめてもらうために私に提出します。合格をもらってから、皆さんのもとに届くことになりま

す。学級通信には、担任の愛情と手間が込められています。これまでに配られた通信を読むと、生徒のみなさんに希望と夢をもって、今年度を迎えてもらいたいという担任の思いをひしひしと感じました。

先ほど書いたように、担任は通信を書かなければならないということはありません。通信という手段でなくても、生徒をしっかりと導く担任もいます。

いずれにしても、学級通信や語りには、担任の思いが込められていきます。目と耳で、それをしっかりと感じとってね。

（五月二十八日 記）



私の元に届いた3Bの学級通信 (付箋は私からのアドバイス)